

「2学期が始まって1週間。主体的に行動できるようになったひと、考えて欲しいひと。」

8月25日に2学期が始まって、1週間が経ちました。この夏をどう過ごしたかが見えてくる1週間でした。夏休み中から、6時半過ぎスタートで駅伝の練習が行われています。それぞれの部活とは別の練習です。ひと夏の成果も現れ、タイムもめきめきと伸びています。この夏は3年部による質問教室も開催されました。30人近い3年生が毎日学校に来て、受験勉強に取り組んでいました。中には学校で勉強した後、未来館で自習をした人もいたようです。未来館の方が、「今年の勉強する姿は、いつもとは違う様子でしたよ。3年生の本気さが伝わってきました。」と教えてくれました。こんな風に何かに自分で取り組み、明らかな力にできている人がたくさんいます。反対に、なかなか思うような生活が送れずに、崩れてしまった生活のリズムや残った宿題に苦しんでいる人もいます。

「人は失敗から学ぶもの」です。大切なことは、上手くいった事は継続し、上手くいかなかった事は原因を分析して、どう修正するかです。夏休みの時間を上手く使えなかったと思う人にこそ、2学期は充実した時間にしてほしいと心から願います。修学旅行、文化祭、職場体験など、多くの行事もある2学期です。誰かにやらされる勉強や活動ではなく、自分で考えて実践する「主体性」のある取り組みを期待しています。

「県大会で健闘しました！」

7月21日から開催された県総体に、挾間中から多くの部活動が参加しました。どの部活動も由布市の代表として、健闘しました。中でも、陸上部の原口帆乃夏さん、柔道部の中園文哉さん、江口さくらさん、大塚光智さん、藤村優輝さん、佐波落心さんが出場し、大分県代表として雄姿を見せてくれました。中園さんは、全国大会にも出場し活躍しました。



「始業式の挨拶から」

主体的に学ぶ意味を説いた話しを、始業式の中で紹介しました。

「なんで勉強なんかしなきゃいけないの？」と問われたあるお母さんが、1杯の水の入ったコップを差し出して話始めました。「算数を学べば、この中に200mlの水があることが分かり、理科を学べば、この水が水素と酸素からできていることを知る。社会を学べば、この水がどこから来たのかを理解し、そして、世界にはこの綺麗な水を飲むことができない人がいることを知る。美術を学べば、この水の反射を綺麗に描くことができるようになるし、音楽を学べば、同じコップでも水の量で音を変えられることに気付く。技術を学べば、このコップがどんな素材で、なぜ壊れないのかが分かり、保健体育を学べば、この水が人の体にどれだけ大切かを理解し、命の正体が見えてくる。道徳を学べば、この水を誰かと分け合うことの大切さを知り、思いやりの心が育つ。国語を学べば、今私が話したことの全ての意味を正しく理解し、英語を学べば、この話を世界中の人と共有することができる。哲学を学べば、この話に何の意味があるのかを考えられるようになる。でも、もし学ばなかったら、この水はただの水のまま。だから、学ぶの。」

学ぶことの意味に気づき、自分で行動を始めることが大切です。

シリーズ「つながる」！親子で語り合いませんか！」「保護者チームの一員として、家庭で取り組むこと」

4月に実施しました「全国学力・学習状況調査」「全県学力調査」の結果が分かりました。3年生は、試験のあった国語・理科は、全県、全国の平均を大きく超えるものでした。数学も全県を超え、全国平均並みでした。2年生は、昨年の12月に実施した由布市学力調査と比較して、各教科ともに伸びてきており、どの教科も平均（偏差値50）を超えていました。挾間中では、先生方が結果を分析し対策を立てて、2学期の授業を進めています。

しかし、学力をつけるためには、家庭学習との連動を欠くことはできません。上に示した「主体的な学び」ができるように、各ご家庭でも「なぜ学ぶのか？」「どう学ぶのか？」を親子で話し合ってみて下さい。